

◇ 論文紹介

大野・福井両藩の蝦夷地対策の一考察

三上一夫 『仁愛女子短大紀要』

第一三号 一九八二

本稿は幕末大野・福井両藩における北辺対策の論考である。大野藩は安政三年以来蝦夷地の探検・開拓を実施し、万延元年には準領地として公認され、同地の海産物を藩店大野屋を通じ販売し、富国策の実をあげている。

一方、福井藩では橋本左内・横井小楠が北辺対策に関する意見を述べているが、大野藩のような実践にはいたらなかった。

両藩の相違点は、大野藩が箱館貿易、福井藩が長崎貿易に富国策の重点をおいたことによる。北辺の防備と富国策をからめた研究視角は興味深い。

(舟沢茂樹)